

不正会計リスクと将来リターン

首藤 昭信
大城 直人 CMA
宋 明子

目 次

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 本稿の目的と構成 | 4. 分析結果 |
| 2. 先行研究と仮説の設定 | 5. 結論と課題 |
| 3. リサーチ・デザイン | |

本研究ではSong *et al.* [2016] によって提案された不正会計予測モデルを利用して不正会計リスクを測定し、それが将来の株式リターンに与える影響を調査した。分析を行った結果、(1) 不正会計リスクの程度は翌期以降の将来リターンと有意な負の関連性を有する、(2) その関連性は、会計発生高ノマリーの影響をコントロールしても頑健であることが分かった。また不正会計リスクと会計発生高を併用した投資戦略を実行することで、より高い株式リターンが得られることも確認できた。本稿は本文と補論で構成されている。



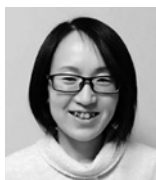
首藤 昭信 (しゅとう あきのぶ)

東京大学大学院経済学研究科 准教授。2002年に関西大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得。11年に神戸大学より博士(経営学)取得。専修大学商学部、神戸大学経済経営研究所を経て15年より現職。著書に『日本企業の利益調整』(中央経済社、10年、日本会計研究学会太田・黒澤賞)、論文に“The Effect of Institutional Factors on Discontinuities in Earnings Distribution: Public Versus Private Firms in Japan” *Journal of Accounting Auditing and Finance* 30 [2015] (共著) 等がある。



大城 直人 (おおしろ なおと)

(株)金融工学研究所 代表取締役社長、筑波大学大学院修士課程修了、同大学大学院博士課程単位満了、博士(経営学)。ニチメン(株)、(株)格付投資情報センターシニアアナリストなどを経て、06年(株)金融工学研究所取締役、12年より現職。



宋 明子 (そう あきこ)

(株)金融工学研究所 調査開発部主任研究員。2007年3月横浜国立大学にて経済博士号取得。07年4月(株)格付投資情報センター入社。同年より(株)金融工学研究所に出向。12年4月より現職。地銀協CRITSスコアリングモデルの構築・年次検証及び銀行の信用リスク管理の高度化を目的としたコンサルティング業務に従事。